

時代を切り拓いた四人の女性

「二十世紀を変えた女たち」

安達正勝 著



いままさに終わりを迎えようとして二十世紀は、さまざまなものが大きな変革を遂げた時代であった。中でもそれ以前の世紀に比べて決定的に変わったのが女性の生き方である。

最初に登場するキユリー夫人は言うまでもなく二度のノーベル賞に輝く女性科学者だが、著者はその決して平坦ではない人生を描きながら、彼女の業績も二十世紀にして初めて可能になったものであると説く。

斬新なコンセプトにもとづく新しい女性

き方とはいかなるものだったかを探る書き下ろし評伝である。最初登場するキユリー夫人は言うまでもなく二度のノーベル賞に輝く女性科学者だが、著者はその決して平坦ではない人生を描きながら、彼女の業績も二十世紀にして初めて可能になったものであると説く。

きわめて個人的でありながら、疑いもなく二十世紀人である彼女たちの生き方は、来世紀にのぞむ日本女性にとってもきわめて示唆に富むものだろう。(四六判 二六四頁 本体一九〇〇円)

最後の書物を求めて

「旅のエクリチュール」

石川美子 [著]



たすけた竜につれられて竜宮城をおとする浦島太郎の物語では、海のなかを旅していくよつすや海底

の風景といったものがまったく描かれていない。ヨーロッパにおいて今からおよそ一五〇年前までは、自然の風景に感動し、それを書き留めた旅行記はほとんど書かれていない。

古代から観光旅行は行なわれ、そのための観光ガイドブックも存在していた。しかしその対象は、自然の景観ではなく、ヒラミッド

やスフィンクスといった人間の技術によってつくり出された人工の建造物であった。また、軍事遠征や巡礼、修業など、あらゆる階層の人々が旅した中世においては、自然は自分たちの行く手をばむ嫌悪すべき障害でしかなかった。しかし十八世紀半ばになると自然に対する考え方が一変する。作家ルソーが『新エロイズ』で、山の美しさや崇高さを描き、『告白』では自然に対して個人的な感動を語りはじめた。この『風景の誕生』を経て、これまでのめづらしい場所を旅した記録としての旅日記だけでなく、よく知られた場所を素材に作者の内面を語る旅文学が現われる。

シャトブリアン、ブルースト、スタンダール、そして日本においては永井荷風や松尾芭蕉といった作家が、記憶や時間の要素を盛り込み、虚構の度合いを強めながら実際の旅日記から、『墓のかたの回想』、『失われた時を求めて』、『パルムの僧院』、『断腸亭日乗』、『おくのほそ道』といった、生涯の作品を結果させていくことになる。

古代・中世から近代にいたる自然観の変遷や、月世界旅行などの空想旅行物語、詩人の旅にも触れながら、旅を書くことで作家は何を模索し、何を見出していたのかを探る。(四六判 一三六頁 本体 四〇〇円)

西欧精神の誕生

「ヨーロッパの知的覚醒」

中世知識人群像
フリリップ・ヴォルツ著

込んだ。

しかしながら十二世紀に入ると、当時の気候の温暖化と農業技術の改良によって、農産物の飛躍的な増産が産み出され、それが人口爆発につながり、いわゆる「奇跡の十二世紀」が始まる。新しい村々が建設され、都市では天を高く大聖堂の建築ラッシュをむかえる。こうして西ヨーロッパ世界は

それ以前にはなかった希にみる高度成長をとげるのである。

精神面における変動も著しくかつた。十字軍の遠征やカテドラルの建立などに見られる民衆の宗教感情の成熟と新たな造形芸術の誕生、大学の成立につながる学問の復権など、新しい動きが始まる。この十二世紀において、西欧世界

にはじめて社会的にも文化的にも

真にヨーロッパ的なものが出現したといえる。

しかしながら、この十一世紀の目を見張るべき大躍進の基礎となつたものは何だったのだろうか。本書はその照準を十二世紀に絞りながら、視点を変えてそれに至る過程、すなわちカロリング・ルネサンスの限界と崩壊、最低の水

準にあった知的環境の中で活動を

つづけていた当時の知識人に光をあて、やがてそれがバネとなり十二世紀の知的覚醒がうみだされるメカニズムをとらえている。真の

西欧的な知識が誕生する歴史的過程

をドラマティックに描いた古典的名著。(渡邊昌美訳 四六判 三一八頁 本体三二〇〇円)

三輪山と古代人の生命観・他界観

「三輪山の古代史」

平林章仁 著



三輪山は秀逸な神体山として、朝野をとわず崇敬された。その神は蛇身の大物主神だとい

うが、『記紀』はこの神について三輪の神婚伝承(芋環形・丹塗矢型・箸型)を伝えており、古くは大和の王家の最高巫女がこの祭を祭っていた。なかでも今一つ鮮明なのが、ヤマトトビモモノヒメがこの神との神婚後に善で陰部を撞いて亡くなったという箸型のものである。著者は民俗学や考古学の知見をも援用して、この箸の実像が、木(ちゅづぎ)

で、神婚の場面が廁(便所)であったという、常識を覆す結論を導く。

三輪山の神は雄略朝に捕捉されたといつこの神の地位低下が推察されるが、難解なこの説話の背景に、著者は中国の『詩経』の知識や養蚕機械文化の存在を指摘する。また大物主神の祭祀を担った神君氏と同祖でその神話に強い影響を与えた、城の鴨氏との関係を想定し、動物祭祀として知られる御蔵神話の分析を進め、御蔵神の原像は、城鴨の新羅系渡来人に始まることを明らかにする。さらに動物供儀にかかわって、これまで否定的に考えられがちだった殉死と殉葬・人身供養が実際に行われた可能性の高さを指摘し、古代人の他界観に言及する。これらはいずれも常識を覆すもので、古代人の生命観・他界観にも新たな視点を提供している。

斬新なアイデアに満ちた書である。(四六判 一一〇頁 本体 四〇〇円)

中世の都パリに刻まれた謎に挑む

「ニコラ・フラメル 錬金術師伝説」

ナイジェル・ウィルキンズ 著

錬金術の父にしてシユールレアリスムの先駆とされるニコラ・フラメル。中世の都パリの写学生兼書籍販売人は本当に錬金術師だったのか?

最近もベストセラー小説『ハリー・ポッター』と賢者の石』にその名を響かせていることからわかるように、中世よりこの方、われわれの想像力をくすぐりつづけているフラメル。事実と伝説の交錯するその謎に満ちた生涯と偉業の解明に、中世史研究を専門とする著者が、果敢に挑んだ。

著者はまず、二枚の地図を広げる。それは、フラメルが暮らしたパリ右岸のサンジャック・ドラブーシュリ教会界隈の古地図。読者は、その地図に導かれながら、古パリの縦横に走る大路・小路に分け入り、十四・十五世紀のパリを旅することになる。モンモランシー通りのフラメルの旧宅前では、そのファサードに刻まれた彫刻の意味

を探り、国立古文書館では、遺言書をはじめとするフラメル関係の多方面の記録を知ることができる。さらにはフラメルの著とされる錬金術書『象形寓意図の書』(小社刊、『ヘルムス叢書』に収録)の真正な解読を試みる。

そもそも錬金術をめぐる研究に画像学的な視点は不可欠な要素だが、本書には中世の図像から現代のマンガまで、じつに幅広く多数の図版資料が収録されている。写学生としてのフラメルの筆致を検証できるのも嬉しい。

フラメルの足跡をつぶさに追う本書は、錬金術と当時の文化・芸術を探るうえで、の好著である。

(小池寿子訳 四六判 二八〇頁 本体 二八〇〇円 7月下旬発売)

新装復刊

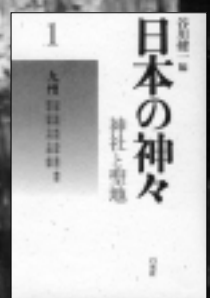
表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

日本の神々

神社と聖地



「全13巻」
谷川健一 編
各四六判/上製

- 各地に今も息づく神々を通して、日本列島の歴史・文化・風土を浮彫にする。伝統文化の象徴としての神社に、民俗・歴史・考古など学際的観点から光を照射する画期的試み。
- 九州
 - 四七六頁/四七〇〇円
 - 山陽・四国
 - 四五八頁/四七〇〇円
 - 摂津・河内・和泉・淡路
 - 四四〇頁/四六〇〇円
 - 大和
 - 五九〇頁/五七〇〇円
 - 山城・近江
 - 五五二頁/五二〇〇円
 - 伊勢・志摩・伊賀・紀伊
 - 四九六頁/四八〇〇円
 - 山陰
 - 四八二頁/四八〇〇円
- 北陸
 - 四三八頁/四六〇〇円
 - 美濃・飛騨・信濃
 - 四六二頁/四七〇〇円
 - 東海
 - 四五四頁/四七〇〇円
 - 関東
 - 五八〇頁/五七〇〇円
 - 東北・北海道
 - 三九〇頁/四四〇〇円
 - 南西諸島
 - 六一四頁/五七〇〇円
 - セット 六四三〇〇円

詳細な全巻内容は白水社ホームページで見ることができます。

今世紀最後の傑作長編!

「器用な痛み」

アンドリュー・ミラー作



十八世紀中葉のイギリスの寒村。自営農ダイアの妻が氷上で見知らぬ男に犯された。妻は妊娠し、息子ジエームズが生まれる。子供は十歳の夏、高い木から墜落し、足の骨を折るが、治療を手伝った行きずりの詐欺師ガマーは、ジエームズが少しも痛みを感じていないのに気づいた。やがて村を天然痘が襲い、ジエームズの兄弟も、母までも死んで行く。

父もあとを追うように自死し、ジエームズは一人村を出てガマーの元へ向かった。ガマーはジエームズを使って偽薬の行商を始める。見物の目の前で偽薬を飲ませてから、手に針を突き刺し、腕を蝸蝨燭であぶって、ジエームズはけろりとしていた。薬は飛ぶように売れる。このあとジエームズは科学マニアの貴族にさらわれ、さらに海軍軍艦の医師の助手等

を経て外科医として頭角を現す。痛みを感じない男は患者の痛みにも無頓着に鮮やかな執刀ぶりを見せるのだ。だがそのジエームズの人生にも暗転の日が……

異能の外科医の数奇な運命を描く新鋭の長編は、ジュースキント『香水』に比肩する傑作と絶賛を浴びた(鴻巣友季子訳 四六判 三九〇頁 本体二四〇〇円)

フェルメールの光と影に迫る小説!

「真珠の耳飾りの少女」

トレイシー・シュヴァリエ[作]



「レンブラント、フェルメールとその時代」展
国立西洋美術館にて開催中
(7/4~9/24まで)

十六歳の娘フリートは、画家フェルメールの家の女中になったとき、盲目の父の身の回りの世話をしていた経験を活かし、アトリエの掃除と整頓を任された。その真珠の耳飾りを着けたフリートの姿を描くに至って、物語は一気にクライマックスへと突き進む……

十七世紀オランダ、デルフトの人人や街の様子を史実に則り、情感豊かに描き、フェルメールの絵に通じる雰囲気を感じた本作は、全米ベストセラーとなった歴史小説だ。ぜひ、画集を傍に置いて読んでほしい。(木下哲夫訳 四六判 二七八頁 本体二〇〇円)

そんなフリートを待ち受けていたのは、波乱含みの人間関係だった。粗忽なためアトリエの出入りを禁じられている夫人カタリーナとの確執、気丈で抜け目ない、夫人の実母マリア・ティンスとの駆引、フリートを目の敵にする次女コルネリアとの諍い、鼻唄の肉屋の息子ピーターがフリートに寄せる恋慕……。しかしある日、予期せぬ出来事が

極微観察面白小説

「室温」

ニコルソン・ベイカー[作]



『中二階』『もしもし』『フェルマータ』と続く面白小説群のなかで、超ミクロ的観察眼と驚くべき連想力によって身の回り品やセックスの楽しみを描いたニコルソン・ベイカー。

中身を聞きとることができるとか否か、旅客機の客席送風ノズルの魅力として文章におけるコマの役割まで、をまたも顕微鏡の細かさ、止めどない連想の力で描ききる。

まずは自分の着ているセーターの編み方が機械編みでありながら、曖昧さを残したやわらかい仕上げになっていることにひとくさり思いをめぐらし、次いで赤ん坊がいじっている哺乳瓶の分量目盛りからの連想で、ピーナツバターを瓶に付けたオンス目盛りの集光原理について、さらに、母親が自分を妊娠中にピーナツバターを瓶から直接すくって舐めていたが、妻もまた赤ん坊がお腹にいるときにそうしたという暗合性に感動……と果てしなく微細観察・連想ゲームは広がっていく。ベイカーファンにはこたえられない面白さである。

(岸本佐知子訳 四六判 一九〇頁 本体一六〇〇円 7月下旬発売)

光と闇のバロックの世界

「悲しみの鴉」(上・下)

アンナ・マリア・オルター[作]



「啓蒙の時代」「光と理性の世紀」の暮れ方、リエーの母の死とその出自の謎、彼女の「弟」たる三百歳になるといふ精霊の存在、妹の死と殺されたヒワの小鸟……。寡黙で美しい少女と若者の周囲に、不可思議な事件が次々に起こり、甘く優しい小鳥のさえずりとともに、世にも悲しい物語が始まる。

イタリアを代表する女性作家のストーリーテリング、文体ともに技巧と洗練をきわめた畢生の書ナポリを舞台にした長編歴史幻想小説。(村松真理子訳 四六判 各一五〇頁 各本体二二〇〇円 7月下旬発売)

「啓蒙の時代」「光と理性の世紀」の暮れ方、リエーの母の死とその出自の謎、彼女の「弟」たる三百歳になるといふ精霊の存在、妹の死と殺されたヒワの小鸟……。寡黙で美しい少女と若者の周囲に、不可思議な事件が次々に起こり、甘く優しい小鳥のさえずりとともに、世にも悲しい物語が始まる。

痛快な回想録!

「ミラにダンスを踊らせて」



「メトロポリタン美術館は、世界中で最も多様で、最もきらびやかな美術館であり、そしておそらく最も豊かな歴史を持つ美術館である。」(まえがきより)

だがこのメットも、一九六七年に著者が第七代館長に就任した時点では、多くの人員と収蔵品を抱えながらも、生気のない美術館だった。著者はこを「人間的な美

術館、民主主義の産婆役」にしようとして決意する。やる気のない学芸員を解任し、新しい人材を抜擢、建物の大改装し、財界の大物から寄付や寄贈を集める。そして何よりも、偉大な美術品を購入し、魅力的な展覧会を催す。

彼は世界を飛び回り、モネやベラスケスなどの大傑作を手中にする。アンドレ・マルローに会い、ル

ブルの逸品を借り出す。ジャック・リヌケネディと共にエルミタージと交渉し、スキタイ美術の豪華な展覧会を開く。そして極めつけはあの黄金のマスクで知られるツタンカーメン展。衝突や失敗をもとめせず突き進む博物館長の、痛快きわまる回想録である。

(東野雅子訳 四六判 五六六頁 本体三四〇〇円)

「監禁された少女」のサバイバル

「キレイ」 神様と待ち合わせした女

松尾スズキ[作]



奥菜恵という正統派アイドルを、松尾スズキという異端劇作家がどのように料理するのか? 第41回岸田國士戯曲賞受賞後、主宰劇団天人計画の公演以外でも精力的に仕事をこなし、演劇界の注目を集めている著者待望の新作(東京・渋谷のシアター・コロンにて上演)はその異色の顔合わせからも度肝を抜かれるミュージカルだ。

物語の舞台は、キグリ、クマズメサルタという三つの対立する民族が百年の長きにわたり紛争をつづ

けている。「もつひとつの日本」。ひとりの少女が、七歳のときから十年間、誘拐犯の人間として地下室に軟禁されている。本部と呼ばれるところから配給される缶詰と少女を記録するためのビデオカメラしかない部屋は、彼女にとって、はむしろシンプルにして生きるよすがともいいうべき空間だった。しかし、やがて食糧の供給もままならなくなり、「神」と呼ばれるものが登場してくると、事は一筋縄ではいかなかった……。

過去と未来を交錯させながら主人公の心の癒やしを模索されてゆく物語、「監禁された少女」のサバイバルを描いた話題作!(四六判 一八八頁 本体一八〇〇円)

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp



好評既刊

ミラノ 霧の風景

須賀敦子(女流文学賞・講談社エッセイ賞受賞) 870円

生半可な學者

柴田元幸(講談社エッセイ賞受賞) 870円

字幕の中に人生

戸田奈津子 930円

日々の暮し方

別役実 870円

屋根の上のバイリンガル

沼野充義 950円

ビールと古本のプラハ

千野栄一 900円

ブッキッシュな世界像

池澤夏樹 900円

パリ史の裏通り

堀井敏夫 980円

デザインと行く

田中一光 930円

ヒト、山に登る

柏瀬祐之 880円

白水Uブックス

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

【白水Uブックス1045】「ポケット・フェティッシュ」 松浦理英子著

女性器は隠され、そして暴かれる。人間の文化は長い間、この隠蔽と暴露のゲームを続けてきた。ゲームを始めたのは女に対して優位にあった男たちである。男たちが女の人格と女体を切り離し、女を快楽の道具と見做すようになって以後、女性器は男性が男性であるためには必ず獲得し、探求し、そこから快楽を引き出さなければならぬものとなり、いずれ

【白水Uブックス1046】「屍体狩り」 小池寿子著

「たとえば、初夏のしっとり汗ばむ夕暮れ時に、少々早いと思いつつもビールなど飲みながらふつふつと自虐的な快感に浸っている、今夜は屍体狩りでもしようか、という気分になるのである(本文より)」そして狩りとられるは、ヨーロッパの中世美術から外国煙草の商標まで、愛と死の謎を秘めた図像たち。嫌悪感や憐れみをまじえずに屍体を眺めるとき、死者

【白水Uブックス1047】「郊外へ」 堀江敏幸著

卓抜した仕掛けによって、パリ郊外を語りつくした魅惑の書がここに生まれた。郊外で暗い少年時代を過ごしたアラン・ドロン「犯罪者の目」に孤独の影を読み(坂道の夢想)、簡潔な言葉の連なりから甘美な音楽が流れたすもディアーノの小説の魅力を舞台となった土地の地図を書きながら探りあて(記憶の場所)……。いずれも、「壁の外」をめく

【白水Uブックス1048】「樹の花」 装幀家の余白 菊地信義著

一冊の書物をめぐる装幀と読者との関係は「不安を渡る舟」に似ており、装幀家の使命は、その不安の表出としてのズレを読者に訴えることである。そのズレは、装幀家が記さずに残した、本の余白に見ることが出来る。書く人と読む人が、本を介して紡ぐ、夢の総和が現代だとすれば、装幀はその余白に咲く花である。言葉

【白水Uブックス1049】「森物語」 高田宏著

岸辺の岩に赤とんぼが一匹とまっている。ふと飛び立つたその赤とんぼが、ニメートルと飛ばないでポトリと水面に落ちた。一つの命が終わって、赤とんぼは静かに川を流れていく。だがそれは悲しい光景ではない。森とはそういう生と死を豊かに抱えて生きているものだ。そうした深いやすらぎのあるところだ。

文庫クセジュ

【0826】

「言語政策とは何か」 リイジャンカルウエ著

「国語」や「標準語」は、どのようなメカニズムで作られるのか? 社会言語学は、そのような設問に、きちんと取り組もうとする。本書は、二十世紀後半に誕生した新しい概念「言語政策」を紹介し、その科学的な実践方法を具体的に詳しく解説することで、言語と社会の関係を考察するための明快な視座をわれわれに与えてくれる。多言語主義やクレオール文化について考えるためにも必読の書である。(西山教行訳 三浦信孝序文 新書判 一七〇頁 本体九五円 7月下旬発売)

語学書

「ふらんす 夏休み学習ガイド2000」

【CD付き】 白水社ふらんす編集部編

四月からフランス語を始め、この夏休みに基礎固めをしたい、秋の《仏検》に備えたい、あるいはフランス語に再チャレンジしたいという方々にピッタリ。全8課、各課4頁(テキスト・情報欄・文法・練習)構成。フランス語情報にひたりながら、入門期の文法の総復習が行なえます。懸賞付添削実力問題あり。(B5変型 四八頁 本体一四三円)

第48回 日本エッセイスト・クラブ賞受賞 鶴ヶ谷真二著

書を読んで羊を失う

歐洲に帰ったシーボルトが翻訳した日本の悲劇『盲目の皇帝』とは? 漱石は稲を知らなかったが三島由紀夫は松を知らなかった! 古今の書物に興味尽きない逸話を探る類稀な読書随筆 四六判/一九〇頁 本体一八〇〇円

編集メモ

朝鮮語の夜学に通いはじめ二年目になる。五十七歳になつてからの手習いで、記憶力の衰退には我ながらあきれ、いや、記憶力などのせいにするから年をとると情けない。予習も復習もしないのだから、できないのは当然なのだ。先生は、毎日二十分必ず声を出して、文字を書きな

「サルタヒコ」のレポートを学生時代に書かなければならないことがありました。当時も手がかりのなかつた私は、図書館や神社をやみくもにあたるうち、神話や歴史の学習を趣味とする方がわりと多くいらつしやることを知って驚いたものです。6月に新装復刊した「日本の神々(全13

いまハマっている田口ラディという作家の「著者紹介」には、必ず「インターネット上で六万の定期購読者を持つメールマガジンを配信」という一文がある。彼女の文章が持つ独特のリアリティと、ネット社会との関係はよくわからない。ただ、文章を生業とする覚悟を決めた人間がインターネットという手段を選ぶのは、単にデビューが簡単だからという理由ではあるまい。もろくもアイデンティティの危機に陥るのであるが。

本の十字路

続々とネット上で作品を発表している。物を書く行為には想像上の読者が必要だから、実際の読者から逐一情報が入る環境はある種の作家にとって最善のものだろう。最近、自分が編集した本を「直売」する機会が何度かあった。読者としてしかに接触することはめったにないので、実に面白い。もちろん小売のフロにはかなわないし、全然売れなかつたりするともろくもアイデンティティの危機に陥るのであるが。

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakuisuisha.co.jp

語学書

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

ベストセラーシリーズ《エクスプレス》にC Dが付いた! CDエクスプレス 気軽に学ぼう 世界の言葉! 速く着実に基礎をマスター。 フランス語 筑紫文耀著 1600円 ドイツ語 小塩 節著 1600円 イタリア語 小林 惺著 1600円 スペイン語 塩田洋子著 1700円 中国語 榎本英雄著 1700円 ブラジル・ポルトガル語 黒沢直俊著 2000円 タイ語 水野・鈴木著 2200円

エクスプレス 外国語入門シリーズ Cは別売テープ 日本語(英語版) 日本語科編 1600円(2色刷) C2140円 中川・中本 2400円 C2820円 早川嘉春 1600円 C2140円 千島英一 2200円 C2140円 榎本・范 2100円 C2140円 村上嘉英 2200円 C2524円 川口健一 2330円 C2524円 鈴木・チヤンタマリ 2400円 C2820円 上田広美 2700円 C2820円

ビルマ語 加藤昌彦 2700円 C2820円 フィリピン語 津田・ユウ 2000円 C2820円 ベンガル語 町田・丹羽 2500円 C2820円 ヒンディー語 田中・町田 2400円 C4280円 インドネシア語 柴田紀男 2000円 C2820円 マレー語 近藤・モハメッド 2200円 C,CD各2820円 チベット語 星実千代 2800円 C2820円 パンジャービ語 岡口典雄 2233円 C2524円 トルコ語 大島直政 1900円 C2820円 アラビア語 奴田原・岡 2400円 C2140円 旁多語 西尾御阿利マ 2500円 C2140円 ペルシア語 藤元優子 2800円 C,CD各2820円 古典ギリシア語 荒木英世 2600円 C2820円 現代ギリシア語 荒木英世 1900円 C4280円 ロシア語 桑野 隆 1800円 改訂版 C,CD各2820円

ブルガリア語 寺島憲治 2400円 C4280円 ポーランド語 石井哲士朗 1900円 C4280円 チェコ語 保川垂夫子 2200円 新編版 C2820円 セルビア語・クロアチア語 中島由美 2300円 C2820円 ハンガリー語 早稲田みか 2100円 改訂版 C2820円 ルーマニア語 鈴木信吾 2200円 鈴木信吾 C2820円 フィンランド語 松村一登 1900円 C4980円 スウェーデン語 横山民司 1900円 C2820円 ルウエー語 横山民司 1900円 C2820円 デンマーク語 横山民司 1900円 C2820円 オランダ語 桜井 隆 1900円 C2820円 アイスランド語 横山民司 2330円 C2820円 英(イギリス)語 早川スナック 1400円 C2820円 スワヒリ語 ファラジ 2200円 C4280円 イディッシュ語 上田和夫 2800円 C3200円 エスペラント語 安達信明 1650円 C2524円